

麻疹風疹混合予防接種を受けられる方へ

病気について

麻疹（はしか）は麻疹ウイルスによる全身感染症です。感染力が強く、飛沫感染・接触感染だけでなく空気感染もします。10～12日の潜伏期間の後症状が出始め、発熱、せき、鼻汁、目やに、発疹を主症状とします。最初3～4日間は38℃前後の熱で、一時おさまりかけたかと思うと、また39～40℃の高熱と発疹が出ます。高熱は3～4日で解熱し、次第に発疹も消失します。

主な合併症としては、肺炎（約1～6%）、中耳炎（約7～9%）があり、脳炎は約1,000人に1～2人の割合で発生がみられます。また、数年から10数年経過後に亜急性硬化性全脳炎(SSPE)という重い脳炎を発症する（約48000人に1人の割合）ことがあります。また、先進国であっても麻疹にかかった人のうち1000人に1人程度の割合で死亡することがあります。

風疹は風疹ウイルスの飛沫感染によりおこります。潜伏期は2～3週間で、軽いカゼ症状ではじまり、発疹、発熱、後頸部リンパ節腫脹などが主症状です。その他、目が赤くなる（眼球結膜の充血）などの症状もみられます。合併症として、関節炎、血小板減少性紫斑病(5239人に21人)、脳炎(5239人に2人)などが報告されています。大人になってからかかると重症になります。

また、妊婦が妊娠20週頃までにかかると、先天性風疹症候群と呼ばれる病気により、心臓病、白内障、聴力障害、発育発達遅延などの障害を持った赤ちゃんが生まれる可能性が高くなります。

予防接種の受け方

麻疹風疹混合ワクチン(MRワクチン)を接種します。このワクチンは生ワクチンです。生きた麻疹ウイルスと風疹ウイルスの毒性を弱めたもので、その病気にかかった状態に近い免疫をつくります。

麻疹ワクチンも風疹ワクチンも1回の接種で95%以上の子どもは、免疫を得ることができますが、つき損ねた場合の用心と、年数がたつて免疫が下がってくることを防ぐ目的で、2回目の接種（第2期）が行われるようになりました。

※ 過去に麻疹または風疹の病気にかかった人も混合ワクチンでの接種が可能です。

◆ 第1期：1歳～2歳未満 1回接種

◆ 第2期：5歳～7歳未満で小学校就学1年前～就学前日（4月1日～3月31日）までの時期
〔年長クラスの幼児〕1回接種

予防接種後の注意と副反応について

- ① 予防接種を受けたあとはしばらくお子さんの様子をみた後、医療機関の指示に従ってください。
- ② 接種後24時間は、副反応の出現に注意し、観察してください。
- ③ 発熱もなく、体調がよければ接種日当日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をなるべく、こすらないようにしてください。
- ④ 接種日当日はいつもどおりの生活をしてかまいません。激しい運動はさけてください。
- ⑤ 接種後、他の注射生ワクチンの接種を受ける場合は、27日以上の間隔をあけてください。
- ⑥ このワクチンは生ワクチンですから、ウイルスが体内で増殖します。

ワクチン接種後の反応として多く見られる症状は発熱、発疹です。発熱や発疹といった症状は、接種後13日以内（特に7～10日）に多くみられます。接種部位の発赤、腫れ、硬結（しこり）などの局所反応、リンパ節の腫れ、関節痛等がみられることもあります。いずれも一過性で通常数日中に消失します。また、接種直後から数日中に過敏症状と考えられる発熱、発疹、そう痒（かゆみ）などがみられることがありますが、これらの症状は通常1～3日でおさまります。重大な副反応として、アナフィラキシー（ショック症状、じんましん、呼吸困難等）、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病（紫斑、鼻出血、口腔粘膜の出血）等がごく稀に報告されていますが、ワクチンとの因果関係が明らかでない場合も含まれています。

接種後4週間くらいはお子さんの健康状態に気をつけてください。

※接種後、機嫌がわるくなったり、異常があるときは、接種を受けた医師にご相談ください。

また、下記にもご連絡ください。

予防接種健康被害救済制度について

重篤な副反応が出現する頻度は極めて稀ですが、みなさんが安心して予防接種を受けられるように、予防接種法では健康被害救済制度がもうけられています。

健康被害が生じた場合、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因によるものなのかの因果関係を予防接種・感染症医療・法律等、各専門分野の専門家からなる国の審議会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合は、法に基づく健康被害救済の給付の対象となります。

お問い合わせ先

大東市地域保健課 【すこやかセンター（保健医療福祉センター）3階】

☎072(874)9500

四條畷市立保健センター

☎072(877)1231